

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

令和5年度第6回 理事会議事録

日時：令和5年6月19日（月）14:00-16:00

場所：山梨大学大学院整形外科学講座／Zoom

【出席した理事】伊東 学、大鳥 精司、小田 剛紀、金村 徳相、川口 善治、高橋 寛、田中 信弘、
筑田 博隆、土井田 稔、永島 英樹、中村 雅也、西田 康太郎、根尾 昌志、
橋爪 洋、波呂 浩孝

【出席した監事】小澤 浩司、播広谷 勝三

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・波呂浩孝が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 審議・決議事項

① ．前回の議事録の確認

修正等ある場合は大鳥理事へ一報する。

② ．メンバーシップ・コンプライアンス委員会：会員審査（5月分）

5月の入退会について全員を承認した。

③ ．JSR編集委員会：委員の交代およびChatGPT等AIツールの取り扱いについての規定（案）

JSR 編集委員の交代を承認した。

学会名	旧委員	新委員（2023～）
日本低侵襲脊椎外科学会	石井 賢 委員	西良 浩一 委員
日本側彎症学会	出村 諭 委員	重松 英樹 委員
西日本脊椎研究会	今城 靖明 委員	西田 周泰 委員
日本脊椎・脊髄神経手術手技学会	長谷 斉 委員	山崎 隆志 委員

また、日整会誌『JOS』でも ChatGPT 等 AI ツールについて規程が定められたが、JSR 編集委員会としても投稿論文作成時の AI ツール利用の取り扱いについて決めるべく規程案を提示した。重要なのは、AI 支援技術を使用した場合、論文の「対象と方法」または同様のセクションにおいてどの AI ツールをどのように使用したかを開示することおよび、AI ツール利用の有無を問わず、著者は原稿の内容に対し全責

任を負うということである。

近日中に JSR 編集委員会を開催して詳細をつめていくつもりであり、また連携を取るべく SSRR 編集委員会の折田委員長にも連絡済である。次回の理事会に委員会案を提出し、理事会で検討する。

④. 広報委員会：広告趣意書の件

広報委員会で作成した学会のバナー広告共通の趣意書を理事会として承認した。JSR と SSRR のホームページのバナー広告については、今まで同様に杏林舎で申し込みの取りまとめを行う。

⑤. 社会保険等システム検討委員会：セメント注入型横穴付きスクリュー使用の通知文案

セメント注入型横穴付きスクリューの使用通知文について案を提示した。要点は

1. セメント注入は使用基準で制限をかけるが、横穴付きスクリューの使用は厳密な制限をかけず医師の裁量に任せる
2. セメント注入の可能性のある椎体への使用は認める
3. ただし適正な保険診療や使用基準を考慮して、横穴のない通常スクリューの併用を励行する
4. 償還価格が高い製品であることから症状詳記の記載が必要となる場合がある

多くの質疑がなされ、活発な議論が行われた。最終的に新技術評価検証委員会や社保委員会とも綿密に相談して通知文が作成された経緯も勘案して、理事会として承認した。

⑥. 用語委員会：用語事典改定と委員の推薦について

用語事典は5年に一度改定しているが、第6版から既に3年が経過し、委員会委員を追加して改訂作業に取り掛かる必要がある。すでに委嘱されている担当理事・委員長も含め、以下の委員案が提出され、一同検討の結果承認した。

委員は、他の委員兼任が少ない若手を中心に構成している。

担当理事：大鳥精司(千葉大学大学院医学研究院)※委嘱済み

委員長：稲見 聡(獨協医科大学病院) ※委嘱済み

委員：

野尻 英俊(順天堂医院)

船尾 陽生(国際医療福祉大学成田病院)

本郷 道生(秋田大学大学院)

中村 豊(獨協埼玉医療センター)

森 幹士(滋賀医科大学医学部)

坂野 友啓(浜松医科大学医学部附属病院)

小林 和克(日本赤十字社 愛知医療センター 名古屋第二病院)

坂浦 博伸(市立吹田市民病院)

鈴木 亨暢(大阪公立大学)

鉄永 倫子(岡山大学病院)

上記に加え、JSSR-DB の用語が統一できていないため、DB 委員会から一人、委員として入ってもらうことを承認した。

また、日整会では紙媒体はやめ、オンライン（アプリ）の用語集作成を行うことになった。当学会でもオンラインにするか書籍にするか、出版社の意向も含め、まず委員会で審議することとなった。

3. 審議・報告事項

①. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

大鳥理事代理で職員の鈴木めぐみ氏が、SWJ の法人設立が予定通り 6 月 1 日に無事完了したと報告した。2025 年の各学会会長がシンポジウム数、企業共催セミナー数、海外演者招聘について具体案を提出し、現在プログラムの大枠を作成中である。また、2026 年のコンベンション会社は JCS に確定し、開催場所については横浜か神戸で選定中である。

さらに、SWJ の学術集会で黒字となっても各学会への分配は行わないことや、海外演者招聘については一定の条件を設けることになったと報告した。

②. 専門医制度委員会報告

今月の第 38 回日本脊椎外科学会（NSJ）学術集会で中村副理事長が専門医についての講演を行った。そのときに専門医試験も行い、受験者中不合格者は 1 名のみだった。

今後の方向性について専門医制度と指導医制度とのすり合わせが必要なため、両委員会の合同開催を予定している。

③. 国際委員会報告

コロナウイルスの流行で停止していた ATF の募集再開は 9 月ごろを予定し、今年中に選考する。募集時の会告内容については募集年齢を上げる等の変更を予定しているので、会告案については理事会で審議をお願いしたい。

また、Euro Spine との連携については、来年の JSSR 学術集会でどのようにコラボレーションしていくか酒井委員長を中心に検討中である。学術集会の演題をどの程度英語化していくか等も検討中である。

④. COI委員会報告

直近で行ったCOIの審査内容および結果を報告した。また、3年ぶりの開催となった日本医学会連合主催の第7回研究倫理教育研修会の報告を行い、理事会内で情報を共有した。

⑤. データベース委員会報告

JSSR-DB 2022年度の進捗状況を示した。

2023年度は2023年5月31日現在で、登録数11,642件である。

また、脊椎脊髄手術が「一般的な整形外科手術」として登録されているケースが約17,000件あったとして、各施設の代表指導医へ症例再入力依頼のメールを送ったことを報告した。

今後専門医・指導医 新規・継続申請との連携を行っていくために、JSSR会員システム内を改修し、日

整会の会員番号を入力できるスペースを設け入力を促す計画が示された。脊椎脊髄外科専門医制度のカリキュラムは2023年4月から開始され、すでに経験症例の登録が進んでいるため、早急に対応する。

⑥. 指導医制度委員会報告

日本専門医機構脊椎脊髄専門医試験の本格導入に伴う移行期間の終了に伴い、2023年度の指導医の新規の審査を早め、12月中に理事会の承認が得られるようなスケジュールで行う予定である。また、指導医申請要項の改定案について提示した。

1) 日本専門医機構の脊椎脊髄外科専門医であること。

手術症例の提示：300例、うち執刀200例以上とする

手術には以下の手術症例が含まれることとする。

- ・腰部脊柱管狭窄症（術式は問わない）：20例
- ・腰椎椎間板ヘルニア（術式は問わない）：20例
- ・頸椎前方固定術：5例
- ・頸椎後方除圧術：20例

また、以下の症例を各最低1例以上、合計20例以上経験していること。

- ・脊髄腫瘍摘出術（馬尾腫瘍を含む）
- ・胸椎腰椎前方固定術（LLIFを含む）
- ・頸椎後方固定術
- ・腰椎後方固定術

3) 発表・論文5編以上

筆頭著者としての論文3編を含む論文および発表5編以上（筆頭著者の3編以外は論文・発表とも共著者、共同演者可）

上記について多くの意見が出され議論されたが、大勢は以下のようになった。

1. 経験手術症例疾患と症例数については、上記でよいだろう。
2. 移行期間終了後、日本専門医機構脊椎脊髄専門医認定をされた年に、すぐ指導医も申請するのはあまりに短期間であるので、上記審査は最速でも2026年以降とするのがよいだろう。
3. 新規のJSSR指導医申請時には、JOAの認定脊椎脊髄病医資格を要することは求めないが、更新の指導医には求める（今までと変更なし）ことがよいだろう。

以上の議論も併せて再度指導医制度委員会で検討し、次回以降の理事会で審議することになった。

⑦. 広報委員会報告

ホームページの更新について報告した。また第51回日本脊椎脊髄病学会報告について、大正アワード受賞者写真やコメントを掲載した。

⑧. プロジェクト委員会報告

プロジェクトの進捗状況を報告した。

また、今年新規に提案された頸椎装具のプロジェクトについては、担当者に進捗の確認を行い、次回の理事会で報告することになった。

⑨. その他の委員会報告

JSR 編集委員会：投稿時の二重投稿および医療機器と医薬品の適応外使用のチェックについて

以前理事会で決議されたJSR投稿時のチェック項目の追加について、その内容を報告した。

しかし、わかりにくい点があり申請者が判断に迷うとの指摘が複数の理事から出され、JSR編集委員会で再検討することになった。

⑩. その他

・次回の理事会開催日：7月24日（月）14：00-16：00 Zoomにて

以上

令和5年6月19日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 波呂浩孝

監事 小澤浩司

監事 播広谷勝三